

## 高齢者の自立を助ける生活環境条件に関する研究

## 第一報 生活基盤と生活自立の状況

兵庫教育大 ○菊澤康子 兵庫女短大 正森由紀子

奈良女大生活環境 長谷川牧 梁瀬度子

〔目的〕高齢者の加齢に伴う生理機能の低下現象は、個人差はあれ避けられないのは周知の事実である。一方、現在高齢社会を目前にしているわが国の状況下において、いかにして高齢者個々人の生活機能の低下を防ぎ、自立した生活を営めるようにするかが最重要課題の一つとなっている。本稿では、このような観点から、高齢者にとって最も基本的な自立の要素の一つである食生活自立についてとりあげ、自立を助ける生活環境条件を明らかにすることを目的とした。第一報では高齢者の日常生活の自立と関連する生活基盤の実態と生活機能の自立の現況把握を試みた結果を報告する。

〔方法〕兵庫県内のコープこうべが県南部を中心に実施している高齢者対象福祉サービス「ふれあい食事の会」および「くらしの助け合いの会」の利用者と、その他地域性を考慮して選定した13市1町に居住の、原則として自ら食事作りをしている高齢者のみ世帯の対象者167名に対し予備調査（1994年月7下旬～8月下旬）を、1123名に対し本調査（同年9月上旬～10月下旬）を実施し、各々64.1%、71.0%を回収した。

〔結果〕回答者は、食事作りに関わっている人を対象としたため、男女比が14:86と女性が多く、平均年齢はそれぞれ72.8歳、73.7歳でいずれも前期高齢者の割合の方が多い。また世帯構成は単身者が43.5%と夫婦世帯34.2%より多い。健康状態は、「持病あり」が多いものの「まずまず健康」という者が8割を占めるが、買い物等の歩行不自由者も3割認められ、また食事づくりを負担に思っている者が36.5%も認められた。